



2013年6月3日

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト第3期活動
～活動報告書～

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト
共同委員長 長谷川 閑 史
((公社)経済同友会 代表幹事)
柘 植 康 英
(中部経済同友会 代表幹事)

・活動概要

(1) 活動方針

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトは東日本大震災からの復興支援活動の実施に際し、被災地復興の基盤となる「人づくり」と「産業活性化」に貢献することを基本方針としている。

第3期活動では、第5回運営委員会(2012年5月14日開催)および第6回運営委員会(同年6月26日～7月2日書面開催)において、特に大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県での支援活動に均等に配分するとともに、各県の復旧・復興状況を踏まえ、参加企業・個人から預かった寄附を被災した専門高校への実習機材提供、国公立大学による復興支援事業への資金援助、および宮城県・福島県が運営する震災遺児・孤児の支援基金への資金提供を実施する旨を決議した。

その後、2012年8月27日から募集を開始した寄附が想定に比べて伸び悩んだこと、並びに専門高校への実習機材提供に関わる据付調整・搬入等に要する諸経費に対応する必要から、第8回運営委員会(2013年1月9日～11日書面審議)において支援内容の見直しを実施した。各県教育委員会をはじめとする支援先との協議に基づき、活動方針を遵守しつつ支援総額を引き下げる旨を決定し、専門高校(約2.29億円)、国公立大学(1,400万円)、震災遺児・孤児の支援基金(1,100万円)とし、寄附目標総額を2.5億円に変更した。

(2) 寄附募集

第3期活動では、当プロジェクトに対する寄附について東京国税局による寄附税制適用の確認を得た(2012年8月8日付)ことから、2012年8月27日より寄附金の受付を開始した。以降、2013年1月31日の期間満了までに、216の企業・法人ならびに23名の個人より寄附金を受領した(「 . 収支報告書」を参照のこと)。

(3) 支援活動

第3期活動では、第5回、第6回運営委員会にて、参加企業・法人より受領した寄附金を岩手県・宮城県・福島県の3県にほぼ均等に配分する方針を決定した。しかし、先述の支援内容の見直しに伴い、第8回運営委員会にて機材調達に要する日程や支援の緊急性等を考慮し、岩手県(約8,600万円)、宮城県(約5,300万円)、福島県(約1.1億円)に配分する旨を決定し、以下の支援に充当した(「収入支報告書」を参照のこと)。なお、第8回運営委員会では、通期で見た場合には、3県にほぼ均等に支援が行き渡るように、今後実施する第4期活動にて岩手県、宮城県の比率を高める旨を併せて決定した。

1) 岩手県

被災した専門高校への実習機材提供

岩手県内では、久慈工業高校、宮古水産高校、一関工業高校、釜石商工高校、高田高校に添付実習機材を提供した。2012年12月11日に釜石商工高校へマシニングセンター一式を寄贈して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、2月末の宮古水産高校への小型貨物自動車の寄贈をもって第3期活動による岩手県内の専門高校への実習機材提供を完了した(添付「機材一覧」を参照のこと)。

国立大学法人岩手大学

国立大学法人岩手大学が実施する震災復興プロジェクト「三陸地域復興センター」に対して、2013年2月18日付にて1,100万円を入金した。

2) 宮城県

被災した専門高校への実習機材提供

宮城県内では、宮城県水産高校、宮城県気仙沼向洋高校に添付実習機材を提供した。2013年1月28日に宮城県水産高校へシャルピー衝撃試験機などを寄贈して以降、各校に順次、実習機材の納入を行い、2月5日の気仙沼向洋高校仮設校舎へのGMDSS無線機の設置をもって第3期活動による宮城県内の職業高校への実習機材提供を完了した(添付「機材一覧」を参照のこと)。

国立大学法人東北大学

国立大学法人東北大学地域イノベーション研究センターによる「東北未来創造イニシャティブ」に対して、社会イノベーター人材の育成事業などを行うための資金として2012年9月20日付にて300万円を入金した。

公立大学法人宮城大学

公立大学法人宮城大学による「復興ステーションプロジェクト」に対して、南三陸町における復興支援事業などを行うための資金として2013年2月18日付に

て 892 万 275 円を入金した。

東日本大震災みやぎこども育英募金

宮城県が運営する震災遺児・孤児の生活支援基金「東日本大震災みやぎこども育英募金」に対して、2013 年 2 月 13 日付にて 300 万円を入金した。

3) 福島県

被災した専門高校への実習機材提供

福島県内では、会津農林高校、福島明成高校、白河実業高校、清陵情報高校、小野高校、会津工業高校、塙工業高校、相馬農業高校、勿来工業高校に添付実習機材を提供した。2013 年 1 月 16 日に会津農林高校へスピードプレイヤーを寄贈して以降、順次、実習機材の納入を行い、3 月末の勿来工業高校への模擬送電線実習装置一式の寄贈をもって第 3 期活動による福島県内の専門高校への実習機材提供を完了した（添付「機材一覧」を参照のこと）。

東日本大震災ふくしまこども寄附金

福島県が運営する震災遺児・孤児の生活支援基金「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に対して、2 月 13 日付にて 800 万円を入金した。

収支報告書（添付収支内訳参照）

(1) 収入の部

第 3 期活動では、2012 年 8 月 27 日の受付開始以降、期間満了となる 2013 年 1 月 31 日までの間に、個人 23 名より 422 万 5,000 円、216 の企業・法人より 2 億 5,926 万 8,148 円の寄附金を受領した。また、その間に発生した受取利息収入 9,317 円についても寄附金に支援に充当することとした。以上により、第 3 期活動における収入は総額 2 億 6,350 万 2,465 円となった。

(2) 支出の部

第 3 期活動では、総額 2 億 2,958 万 2,190 円の実習機材を被災した職業高校に提供した。内訳は、岩手県 7,886 万 3,930 円（久慈工業高校 2,086 万 3,500 円、宮古水産高校 751 万 7,900 円、一関工業高校 2,285 万 100 円、釜石商工高校 2,580 万 600 円、高田高校 183 万 1,830 円）、宮城県 4,437 万 2,160 円（宮城県水産高校 724 万 2,060 円、気仙沼向洋高校 3,713 万 100 円）、福島県 1 億 634 万 6,100 円（会津農林高校 829 万 5,000 円、福島明成高校 829 万 5,000 円、白河実業高校 2,046 万 300 円、清陵情報高校 489 万 5,100 円、小野高校 697 万 8,300 円、会津工業高校 992 万 2,500 円、塙工業高校 1,807 万 500 円、相馬農業高校 934 万 2,900 円、勿来工業高校 2,008 万 6,500 円）となった。なお、各実習機材の購入に際し

ては、丸紅プロテックス株式会社に発注し、据付調整・搬入まで実施した。

国立大学による復興支援事業への資金援助については、国立大学法人岩手大学三陸地域復興センターに 1,100 万円、国立大学法人東北大学地域イノベーション研究センターに 300 万円、公立大学法人宮城大学復興ステーションプロジェクトに 892 万 275 円の支援を実施した。

各県が運営する震災遺児・孤児の支援基金への資金提供として、宮城県運営の「東日本大震災みやぎこども育英募金」に 300 万円を、福島県運営の「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に 800 万円を入金した。なお、岩手県が運営する「いわての学び希望基金」については、第 3 回運営委員会（2011 年 11 月 22 日開催）時点で、岩手県より既に事業費を上回る寄附が多方面より寄せられているとの連絡があったため、第 2 期活動以降は支援を実施していない。

以上により、第 3 期活動における支出は総額 2 億 6,350 万 2,465 円となり、収入全額を支援活動に充当し、差引収支額は 0 円となった。

以上